

## 令和4年度目黒シティランの休止について

### 1 経緯

目黒シティランについては、平成28年度から令和元年度まで連続4回開催した後、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は中止、令和3年度はオンラインで開催した（別紙）。

この間、大会コースの中央部分とクロスする都市計画道路補助26号線の整備が着実に進んでいることや、2か年の事業中止・縮小の影響及び「新しい日常」への対応、東京2020オリ・パラ大会に関する機運醸成の終了など、当初とは当該事業を取り巻く様々な環境が変化している。

また、大会運営上の様々な課題が顕在化してきており、今後のあり方について検討すべき時期にきている。

### 2 令和4年度開催の休止

第6回大会の開催については、以下の課題について改めて整理・検討し、どのようにすべきかを判断していく必要がある。大会の準備には1年以上の時間を要し、来年度実施する場合は現時点で実施の可否を判断する必要があるため、令和4年度目黒シティランの開催を見送ることとする。

### 3 大会運営の課題

#### (1) 大会全体について

##### ① コース（交通規制）

補助26号線の工事について、五本木交差点から中央緑地公園までの区間は、少なくとも来年度中に“歩行者のみ”で開通を目指している。

中央緑地公園から目黒郵便局までの区間は、現時点で用地の調整が済んではいないものの、用地の調整が済み次第、車両の全面開通がなされる見込みである。

開通すれば相当な交通量が見込まれる利便性の高い補助26号線であるが、大会コースとクロスするため一時的に遮断する蓋然性が高い。

駒沢・環七・自由・目黒・山手の各通りの規制に加え、開通後の補助26号線を遮断することは、目黒シティランによる交通規制が交通網に及ぼす社会的影響が非常に大きくなる。

これは、単に警備員や経費の増というだけでなく、そもそも警察の許可が下りるのが非常に不透明な状況である。

## ②参加者

従来の3,000人の参加者で大規模な大会を開催する場合、会場（庁舎・中目黒小）やコース沿道などで、「新しい日常」を踏まえた感染症対策を適切に講じられるかが非常に大きな課題となる。

## （2）組織等について

### ①関係団体（体育協会、スポーツ推進委員、町会、住区など）

体育協会やスポーツ推進委員、町会、住区などが目黒シティランに対し、現状は協力的であるが、考え方に変化も見られる。

### ②ボランティア

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、生命・財産や日常の生活に直接関わりのないボランティア活動に従事することへの不安があると考えられる。

### ③地域住民

2年のブランクにより、地域住民の目黒シティランに対する認知度が低下していることが懸念されることに加え、目黒シティランを知らない新住民も増えている。

また、安全・安心の観点からも、ランナー走行時はマスクを外して一斉に住宅地と近接して走行することから、どれだけ地域住民の理解を得られるのかが不透明である。

## （3）各会議室や医療体制の確保について

### ①大会議室・和室等

大会当日の更衣室（10km・女子）及び大会開催に向けて検討を行うための各種会議室として使用している大会議室や、ゲストランナーの控室として使用している1階の和室等が使えないことにより、大会運営に大いに支障がある。

### ②医療体制について

大会当日の救護体制として、医師会や区内病院から多数のボランティアにご協力頂いているが、感染の拡大状況によっては、救護体制を委託化する必要も考えられ、その場合の追加経費は約111万円となることを見込んでいる。

## （4）他区のマラソン大会の状況について

令和3年度は、「世田谷246ハーフマラソン」のみが開催され、その他23区で開催されるマラソン大会は概ね中止となった。

## （5）大会経費について

大会運営に係る主な費用は安全対策費や会場運営費で占めており、参加人数を削減したとしても、それに比例して一律に削減できるものではない（別紙）。

加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、感染症対策費も別途必要になる。

#### 4 施策としての成果

- ・目黒のまちのアピール度（イメージ）向上
- ・スポーツ振興機運の盛り上がり
- ・経済的効果
- ・ボランティア、沿道イベントへの区民の参加

#### 5 令和5年度以降の対応

令和5年度以降の対応については、以下のとおり検討していく。

##### (1) 検討組織

- ・庁内検討組織
- ・実行委員会に替わる新たな検討組織の設置

##### (2) 検討内容

- ・関係機関との調整
- ・ランナーの区民参加
- ・経済的効果の測定
- ・協賛企業の拡大化
- ・ボランティアの確保
- ・経費について

##### (3) 検討時期

令和4年夏頃までに方向性を出す

#### 6 令和4年度に予定している事業について

目黒シティランのレガシーに係る事業

- ・スポーツに関する自主的・自発的事业への支援（町会のスポーツ・健康づくり事業）
- ・地区スポーツ大会の充実
- ・補助26号線開通に向けての事業の検討

以 上

## 1 第5回目黒シティラン（オンラインハーフマラソン）エントリー者数

開催期間：令和3年11月28日（日）0：00～12月11日（土）23：59

	男子	女子	障害者枠	合計	目黒区民		
	定員	900人	575人	25人	1,500人	男子	女子
実績	791人	415人	5人	1,211人	179人	90人	269人

## 2 大会経費について

第4回大会時の委託会社（株式会社RBS）への支払金額の詳細は下記の通り。

	内 容	金 額	詳 細	エントリー者数の増減による金額変動の有無
1	エントリー関連費	748,390円	エントリー処理費、抽選費など	○
2	記録計測費	3,725,147円	ナンバーカード処理など	○
3	制作物関連費	8,061,276円	HP制作費、各種チラシ・マニユアル制作費など	×
4	会場設営費	9,530,750円	会場設営費、コース沿道上の備品費など	×
5	競技運営費	8,425,923円	委託スタッフ人件費など	×
6	安全対策費	33,316,075円	コース沿道などの備品・人件費など	×
7	式典運営費	1,146,500円	MC、音響機材費など	×
	(税抜) 計	64,954,061円		
	(税込) 計	71,449,467円		

●これらは、大会開催にあたり、主に安全対策や会場運営などのために必要となる経費であり、いわば「固定費」とも言える。(約6,653万円)

したがって、募集人数の減少に伴い、一律に削減できるものではない。

●上記に加え、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、感染症対策費も別途必要となる。(約70万円)